

いのちの言の葉2011

富山県教育委員会平成23年度いのちの教育総合支援事業

「命」

立山町立立山小学校
平成23年12月8日実施

【いのちの先生】

佐伯 功麿先生
・山小屋経営

【授業の概要】

- 1 「雪山遭難」に救援協力した経験
- 2 「山小屋」経営を通して遭遇した登山客の事故や死、安全対策の大切さ
- 3 海外の耐久登山レース大会で見られた負傷者や急病人を助けるレース参加者の「命」を最優先にした行動
- 4 立山小学校の児童へのメッセージ

私は、功麿さんから、命について話を聞いて、命が一番大切で、こまっている人がいたら、その人を守るようにして、協力して、それぞれの命を大切にしていきたいと思う。

この世界に悲しいことがなくなっていくように、協力して、命を守って生きていきたいと思う。私は、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」を実現していきたいと思う。

お話を聞いて、命はとても大切、一つしかない命ってことを改めて思いました。その功麿さんの話を聞いて、いつ、どこで、だれが、事故にあうか、わからないということも聞きました。

私は、最近、少し命の大切さをわすれてしまっていました。産まれてきた自分の命歯、一つしかないんだということをわすれずに、これからもいようと思いました。

いのちは、たった一つしかない大切なもの。

ゲームみたいに何回も生きかえらない登山で、がけから落ち、いのちをおとす人もいれば、海でおぼれて死ぬ人もいます。そういったことにならないよう、1日1日いのちを大切に、「自分のいのちは自分で守る。」時には助け合い、そのようなことをすることで、一つのきずなが生まれるのだと思う。

私は、功麿さんの話を聞いて、命は一つだけしかない大切なものなんだと感じました。

登山の話で約18人の人がなくなったと聞いてびっくりしました。かぎりない命なので大切にしたいです。

私は助け合いの大切さを知りました。地震でたくさんの方がなくなりました。流行語の絆という言葉大切に、命を大切にしてください。かぎりない命を大切にしたいです。